



## JUA Cadets & Junior 2017

アッサラームアライクム！

UAE柔道チームは先週のインドで行われたワールドスクールコンバットゲームから帰国、3日間の休暇をとり、香港へ向かいました。7月22～23日に行われたJUA Cadets & Junior Hong Kongへ出場するためです。昨年はこの大会とマカオ大会にも出場しましたが、今年は香港だけの参加となりました。

7月20日深夜、私たちはドバイ空港に集合しました。インドの大会では、8人を引率しましたが、2人が怪我のため出場見送りとなりました。現地時間20日夕方に、香港へ無事に到着しました。

大会前日、7時に集合。目覚ましを兼ね体操と散歩をしました。朝食を済ませ、10時から会場にてウォーミングアップを開始。各自ウォーミングアップを行いました。ひと際気合が入っていたのは私が教えているアハメド・アルナクビとメイサでした。7月号でも紹介しましたが、彼らは必死に私の練習に文句ひとつ言わず付いて来てくれます。練習時間にも遅れることなく、練習後もトレーニ

## — 出来事 —

- 8月は、急遽でしたが日本へ帰省させていただきました。
- 11月3日(金)第2回、日本大使館が行われる予定です。東海大学から光本健次先生をご招待する予定です。

شكرا

シユクラン日記

9月号  
Hong  
Kong 編

ングを頑張ります。普通の事のように思えますが、この国の人々にとっては、とても珍しい事なので。勿論、他の選手も気合がないわけではありませんが、どこか集中していなかったり、畳の上で遊びだしたりと、試合前の雰囲気ではありませんでした。2時間弱、各自のウォーミングアップを終えました。午後は計量となります。無事に全員計量をパスしました。

大会当日、朝のウォーミングアップ開始後に事件が起きました。私は用を足しに一人トイレへ行き、トイレのドアを閉め、用を足そうとしました。そこで、何か気配を感じ、上を見ました。すると、隣から覗かれていました！生まれて初めて腹の底から重低音で「うやあ」と声を出しました。私は、「人間って本気で怖いと、出したことも無いような声が出るのだな」と思いました。こういう場面では本当に叫べないのですね。夜見る野良猫に驚く怖がりの私には特にそうです…。直ぐにトイレから出て会場へ戻りました。観客席にいたのは、私の生徒であるカーリーファでした。冷や汗をかいている私を見て心配してくれました。事情を話すと、「練習中に俺を引きずり回すのに、なんで引きずり回さない？弱虫、倒しに行くぞ」と言ってきました。「弱虫」にはカチンときましたが、納得しました。腕や肩を回しながら私の前を歩く姿を見て、「練習もこれくらい気合を入れてくれれば」と思いました。トイレに着くと丁度覗いていた人が出てくるところでした。私を見たその人はすぐさまドアを閉め閉じこもりました。カーリーファは躊躇なくドアをロックし始めました。勿論出てきません。私は仕方なく試合会場へ戻り、選手のウォーミングアップを見始めました。

試合が始まりました。本日はカデの為、5人が出場しました。

## 試合結果

-50Kg に出場したアハメド・アルナクビは優勝。準決勝まで、緊張からか全く足が動いておらず、彼自身も体が動かないと言っていました。何とか決勝まで進みました。準決勝で段々と体が動いてきたアハメド、決勝戦では初めから攻め続けていました。しかし、いつものようにただ攻めるのではなく、相手の動きをよく見ていたと思います。以前では、腰を引き、背中を持つ柔道をしていましたが、姿勢も上がり、しっかりと組んでできるようになったと感じた試合でした。結果、技あり2を奪ったまま逃げ切り試合終了。姿勢を上げる、2つ組んで技を掛けるという課題ができていたように感じました。

-55Kg に出場したアハメド・アルホサニは3位。人数が少なく3回の試合でした。一回戦は不戦勝。続く二回戦。相手は去年の-50Kgの優勝者で、その時、アハメド・アルナクビを準決勝で破っていました。今大会は、階級を上げての参加でした。開始直後、技ありを奪われました。しかし、諦めることなく果敢に攻めました。指導2を奪い、あと一步のところまで試合終了。もうひと押しできませんでした。敗者復活戦とコマを進めましたが、不戦勝。運も実力の内、満足はできませんが、次に向けて課題が見つかったので良しとします。

-66Kg に出場したのはムサバ・アルシャムシでした。一回戦目は、オーストラリアの選手に開始早々に絞められ一本負け。敗者復活戦に進み、先に技ありを奪うも簡単に追いつかれ、試合終了間際、一本を奪われてしまいました。

+90Kg に出場したアリ・アルダルマキは優勝。二回戦、開始早々に得意の払い巻き込みで相手を投げました。審判が一本いった瞬間に、気持ちが舞い上がった彼は喜びを大きく表現しました。しかし、私は彼に大声で「まだだ！」と叫びました。しかし、

彼は既に上の空、ニコニコしていました。案の定、技有に変更になり試合続行。集中力が切れてしまったアリとチャンスと思いかかってくるフィリピンの選手。彼にとって過酷な戦いになっていたでしょう。その証拠に、試合が長引くにつれ、汗は冷や汗になり、顔が青ざめて、体が動かなくなっていました。技ありと指導2を奪われ、GS(ゴールドスコア)に入りました。全く掛けないアリにとって絶望的でした。相手選手もバテており、「何か一発」と願いに願いました。すると、GS開始2分、死に物狂いに掛けた小外掛けが決まり、試合終了。決勝へとコマを進めました。彼は、もうダメと言っていました。何とか決勝の舞台へ送り込みました。決勝戦、なんと不戦勝。ラッキー勝利です。去年の3位を覆しました。

-57Kgに出場したのはメイサです。彼女は、国内の大会がない為、念願の試合となりました。一回戦、得意の一本背負い投げをかけ、崩れた相手を抑え込み一本勝。二回戦へ進みました。二回戦、始めの2分手前までかなり圧倒していました。開始1分で指導を2つ奪ってあと1つというところまで来ていました。しかし、飛ばし過ぎたのか2分過ぎ、全く動けなくなってしまいました。+90Kgのアリ状態でした。明らかに顔にも表れていました。まだ、日々の練習のお蔭で技が掛けられるという状態でした。何度か得意の内股を掛け、相手か面白いように宙に浮きましたが決めることができずポイントが奪えませんでした。その後、場外指導で指導を2回取られてしまい、そのままGSへ進みました。開始直後、下がったことによる消極的指導をもらってしまい反則負けとなりました。帰ってきたメイサは「はじめ飛ばし過ぎた」と息を切らせながら話しました。敗者復活戦に進み、落ち着いて攻めていました。得意の一本背負い投げで2回の技有を奪い、結果3位となり

ました。

大会二日目、ジュニアの部が始まりました。UAEからは-73Kg級のカーリーファ・アルホサニが出場しました。結果は、3位。一回戦は不戦勝だったため二回戦からのスタートになりました。カーリーファは、二回戦は動きが硬かったものの苦戦をせず一本勝。得意の裏投げが決まりました。準決勝は、カザフスタンの選手でした。この選手は、去年のアジアジュニアのチャンピオンということで強敵の選手でした。彼も同様に全試合一本勝ちで波に乗っていました。印象的には、見るからに寝技の選手。二回戦は裏投げで勝っていたものの、立ち技を掛けたのはその一発でした。準決勝前、カーリーファと戦い方について話をしました。「寝技は勝負しない、立ち技で勝負」。試合が始まり、落ち着いていたカーリーファは立ち技で勝負、少し押していました。見事に相手の寝技への移行を阻止し、順調に指導を1つ奪い進んでいました。もう一つ指導が奪えるかと思ったその時、カーリーファが掛けた内股が止められ崩れてしまいました。このワンチャンスを逃さなかった相手選手は寝技に以降、十字固めに入りました。少し我慢しましたが、カーリーファは思わず参った。準決勝で負けてしまいました。この後、敗者復活戦に進み韓国との選手と試合をし、開始一分、裏投げで一本を奪うも今大会悔しい結果に終わりました。試合報告は以上になります。

## 合同合宿での出会い

大会終了翌日後3日間、合同合宿が行われました。その報告も少しさせていただきたいと思います。この合同合宿には、モンゴル、香港、ラオス、フィリピン、マレーシア、UAEが参加しました。1日午前午後の練習を3日間行いました。



合宿2日目午後の練習が終了した後、一人のコーチが私のところに来ました。

彼は私に「それ私も持ってる」と私の柔道衣を指さし日本語で言いました。私に声をかけてくださったのはラオスのパリタ先生。話を聞くと、柔道教育ソリダリティ柔道コーチングセミナー2014にラオスから参加した先生でした。



柔道はどこで繋がっているか分かりませんね。色々ところで繋がるができます。私とパリタ先生はコーチングセミナー、東海大学、SIJE、友好会館の話で盛り上がりました。その中でもパリタ先生は、光本先生の講習が一番印象に残っているそうです。柔道に対して知らない事や、指導の仕方を知ることが出来たとおっしゃっていました。一生懸命指導することが光本先生への恩返しになるとも言っていました。

無事に3日間の合宿が終わり、UAE以外の国は次の試合があるマカオへと出発していきました。

今回の大会では、ワールドスクールコンバットゲームのモヤモヤを少し晴らせたように思います。悔しさを晴らせた選手、悔しさが更に残った選手がいると思いますが、私自身、選手の成長が見られた大会にもなりました。選手らは、UAE国内ではトップ選手の為、コーチ陣が指導を怠っている様にも感じました。技術面や体力面など一歩外に出れば、まだまだ海外選手とは差があります。これからは、選手の指導も含めコーチ陣のレベルアップを目指していく必要があると感じました。

(UAE柔道連盟 原口直也)